

パラスポーツ体験を行いました（3・4年生）

11月14日（火）に、兵庫県立障害者スポーツ交流館の方をお招きして、3・4年生が、車いすバスケットとポッチャの体験を行いました。

3・4年生混合で2つのグループに分かれて、体験をしました。

前半に車いすバスケットを体験した子どもたちは、後半にポッチャを体験しました。前半にポッチャを体験した子どもたちは、後半に車いすバスケットを体験しました。



バスケット用と介護用車いすは、どう違う？



子どもたちは、AチームとBチームに分かれて、2種類の車いすの違いをチームで話し合いました。

【違いは3つあります】

①タイヤの角度です。バスケットボール用の車いすは八の字になっていますが、介護用の車いすは真っすぐについています。

バスケットボール用車いすは、なぜ、八の字になっているのでしょうか。それは、八の字だと、回りやすいのです。回りやすく、スピードがでやすくなっています。また、八の字にタイヤがついていることで、相手と接触しにくく、けがの防止につながります。

介護用の車いすは真っすぐについています。なかなか回れません。

②車いすの前の部分が違います。

バスケットボール用車いすには、バンパーと足置場があります。競技の際に、足置場に足を置きます。バンパーより前に足は置きません。バンパーより前に足を出して協議をすると、骨折等のけがにつながります。

③バスケットボール用の車いすには、後ろに転倒防止のキャスターがついています。

バスケットボール用の車いすは、

- こぐときは、前に大きく機関車のようにこぎます。
- 止める時は、重心を後ろにして止まります。
- 回りたい時は、回りたい方向のタイヤを手で止めます。



パラリンピックは、障がい者も健常者も参加ができます。ユニバーサルスポーツです。

車いすバスケットとバスケットは、全然違います。車いすに乗ってバスケットをしますが、お尻を浮かすと違反です。車いすに乗ったままパスをするので、力が入りにくく大変難しいです。

《車いすバスケットのルール》

- 1・2回車いすをこいで、1回ドリブルをする。3回目はトラベリングになる。
- お尻はずっと付けたままで、立ったら反則になる。
※ボールは、車いすの横から取る。前から取ると大けがをする。(危険)
- 手が上がらない人や体が前に倒されない人用のゴールがある。



《ボッチャ体験》



ボッチャも、どんな人でもプレーすることができます。手が固まっている(硬直)人、足が動かない人、首がゆっくり動く人等、参加ができます。ゲームをする時には、平等性を保つためのルールがあります。

障がい者のスポーツは、車いすハンドボール、車いすラグビー、アンプティーサッカー、電動車いすサッカー等々、いろいろな競技があります。

いろいろな方に出会います。その時には、思いやりのある心で助けてあげてほしいです。恥ずかしがらずに声をかけてください。勇気を出してチャレンジしてください。

